
CAR LOVE LETTER 『Open traffic』

YAS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CAR LOVE LETTER 「Open traffic」

【Nコード】

N7006H

【作者名】

YAS

【あらすじ】

慣れない他県で起こしてしまった交通事故。不安と痛みにかられながらも、彼女は人と車の温かさを知る。(テーマ車種：三菱ekワゴン(H82W)、マツダユーノスロードスター(NA6C))

(前書き)

車と人が織り成すストーリー。車は工業製品だけれども、ただの機械ではない。

貴方も、そんな感覚を持ったことはありませんか？

そんな感覚を「CAR LOVE LETTER」と呼び、短編で綴りたいと思います。

<Theme: MITSUBISHI eK WAGON (H82
W)、MAZDA EUNOS ROADSTER (NA6C)>

大きな事故を起こしてしまった。

仕事で訪れた長野の山村。慣れない道で、方角もよく分からない。ナビを頼りにふもとの街まで降りて来たが、緩やかなカーブでガードレールに激突。

原因はナビに気を取られた脇見運転だった。

何が起こったのか全く分からない。

ボンネットはひしゃげ、ハンドルからはエアバッグが垂れ下がっている。

事故を起こしたと認識するまで、かなりの時間を要したと思う。

体が痛い。骨折まではしていないだろうが、私は鼻血が止まらない状況。鼻を強く打ったのだろうか。エアバッグには私の血痕が残っている。

逃げなくちゃ。もうろうとしながら、車からの脱出を試みるが、体
が思う様に動かない。

すると突然ドアが開き、「大丈夫ですか!？」と若い男性の声が聞こえた。

その男性に助けられ、私は車から引きずり降ろされる。

「警察と消防、呼びますから。座って待って下さい。」

彼はそう言い、電話を掛けながら後続の車の誘導や、道路に散乱した私の車の部品をかき集める。

学生の頃から貯金して、初任給と合わせて買った私のeKワゴン。そのeKワゴンは今、ガードレールの端末に突き刺さり、一筋の煙を上げながら、全ての機能を停止してしまった。

よく私は助かったものだ……。私は路肩に腰を下ろし、鼻をハンカチで押さえてeKワゴンの姿を見る。今私が生きているのが不思議に思えてしまう程の惨状だ。

さっきの男性が、沿道のヤジウマ数人に協力をあおぎ、私のeKワゴンを路肩に移動する。

「お姉ちゃん、寒いじゃろお。すぐ救急車来るからな。」
近所に住んでいる方だろうか。お婆さんが私の肩にショールをかけてくれた。

直に救急車が到着。これが生涯初の救急車搭乗。
救急隊員に名前と年齢を聞かれ、ペンライトで目を照らされる。
ものすごく眩しい。

救急車に乗せられ、事故現場から搬送される私。
動かなくなったeKワゴンを残し、お世話になった人にお礼を言う間もなく、後ろ髪を強く強く引かれる思いだった。

病院では、鼻の止血に始まり、レントゲンやらCTスキャンやら、いろんな検査を受けた。

結果は強めの打撲と、鼻の内側が切れた程度。あの惨状からは考えられない軽傷だった。

検査を終えると看護師さんが、私の鞆やコートを手渡してくれた。事故直後もうろつとして、車から荷物を出す事をすっかりと忘れていた。

「それと警察の方と・・・、男の方が待っていてくださっていますよ。」と言われる。

男の方？誰だろうか？と不思議に思う。

病院の待ち合い室ではおまわりさんと、私をeKワゴンから助け出してくれたあの人が待って居てくれた。

「大丈夫でしたか？心配しましたよ。」

彼はそう言い、安堵の笑みを浮かべた。

初めて会ったのに、とても親近感のあるその表情。

私の車は、長野の三菱のお店に運んでもらったこと、彼は私の直ぐ後ろを走っていたことから、事故の瞬間の話や、事故処理の話など、色々と話してくれた。

彼が居てくれたおかげで、おまわりさんの調書はあっという間に済んでしまった。

「ご自宅は名古屋の方ですよ？名古屋ナンバーだったので。お送りしますよ。」

救助から事故処理までしてくれて、更にその上県外まで送ってもらうなんて、これ以上ご面倒かけられない、電車タクシーで帰ります！と、彼の申し出を断ったのだけれども、

「もう電車も終わっているでしょうし、失礼ですが、そのなりでは電車はちよつと……。」

よく見ると、私のブラウスやスカートは血で真っ赤！
確かに電車に乗るのは……。

「名古屋なら高速ですぐですし、ちよつと今日は車を走らせたいたい気分なんです。ポンコツでよければ、乗って行かれませんか？」

すみません……私は顔から火が出そうだった。

病院の駐車場には、彼の緑の車だけが一台、水銀灯の光を浴びて、私達を待っていた。

屋根の色が違う。ああこの車知ってる！確かロードスターと言うオープンカーだ。

初めて乗るオープンカーに、私は興味津々。それを感付いたのか、彼は、

「開けても良いですか？結構気持ち良いですよ。」と、軽い操作でソフトトップを開放した。

満天の星空に、綺麗な三日月。これが車から見る景色だなんて。

名古屋までの道中、彼とはいろんな話をした。会話も途切れる事もなく、怪我の痛みも一切忘れ、気付いたらもう名古屋市内だった。

アパートまで送ってもらい、私はお礼にと思い、財布から2万円を取り出し彼に渡そうとした。

すると彼は大きく首を横に振り、受け取る事をがんとして断った。

それでは私の気が治まらなないと訴えると、

「それじゃあ、今度長野の三菱のお店に来られた時、蕎麦をご馳走して下さい。最高に美味しい蕎麦を知ってるんですよ。」

そう言うと彼は、私に名刺を差し出した。

よく知っている電子機器のメーカーロゴが、そこにはあった。

私のeKワゴンは、直すのにはかなりの費用がかかることから、残念ながら廃車する事にした。

体を張って私のことを守ってくれたeKワゴン。決断するときには、本当に辛かった。

だってeKワゴンは、私に生きるチャンスを与えてくれたただけでなく、とても大切な出会いも与えてくれたのだから。

さて、待ち合わせからはもう30分も経っているけれど・・・まだ現れない。

さっき電話をしたら、ごまかしていたけれど、どうも今起きた様な声だった。

彼の会社の製品は、決して時間が遅れたりなんてしないのにな!

程なくして、交差点の向こうから聞き慣れたスポーツカーの音が聞こえてくる。

今日は私ではなく、彼のおごりで最高に美味しいお蕎麦をいただく事になりそうね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7006h/>

CAR LOVE LETTER 「Open traffic」

2010年10月12日14時14分発行